

ぜひ見てね



町の公式LINEで、一般質問の予告動画を配信しています。定例会開会日の3日前から配信しますので、ぜひ見てください。

ちょっとひとりごと

質問に対する議員の思いや、議員が最近考えていることなども、ひとこと語ってもらいました。

遠軽町議会議員の
勢志 優華 です



勢志 優華 議員 10

中学校統合に向けた生徒と保護者の不安に寄り添って

がんばりま〜す！！



村岡 敦子 議員 11

ヤングケアラー支援に対する町の取り組みは

遠軽町議会議員
佐藤 昇 です



佐藤 昇 議員 12

ハラスメントを起こさないための職場づくりは ほか1件

がんばりま〜す！！



阿部 君枝 議員 13

「終活支援」単身高齢者に対する町の取り組みは

がんばりま〜す！！



前島 英樹 議員 14

農業と観光の活性化は

一般質問

ここが聞きたい！

令和8年第2回町議会（定例会）の一般質問には5人の議員が登壇し、町政に対するさまざまな課題について、現状や今後の方向性を町長などに問い質しました。

一般質問とは、議員が町長や教育長などに、対し、町政に関するさまざまな課題について、考えを聞いたり提案をしたりするもので、質問と答弁がかみ合うように全文通告制を採っています。

なお、再質問からは一問一答方式で行い、回数に制限なく質問時間を一議員30分以内としています。

中学校統合に向けた生徒と保護者の不安に寄り添って

教育長（保護者の不安を解消し、教育環境の変化への対応に取り組みます

問

白滝中学校は令和8年度末をもって閉校し、令和9年度から丸瀬布中学校に統合されます。

中学校の統合は、白滝地域住民の長年の話し合いを経て、生徒の将来的な教育環境の維持や教育の質を確保する観点から判断されたものであると

認識しています。

一方で、統合に伴う生徒の通学環境や学校生活の変化などについて、生徒や保護者から不安の声も聞かれます。

令和9年度の統合に向けて、具体的な内容については事前に生徒や保護者などに対して、十分な情報提供が必要であると



令和8年度末をもって閉校が決まった白滝中学校

母校がなくなるのは本当に寂しい・・・

ちょっとひとりごと

答

①現時点では令和8年度当初予算に

- ②制服をはじめとする2校で異なっているものの取り扱いは。
- ③白滝地域でこれまで行われてきた地域資源を活用した教育活動を継続する考え方は。
- ④保護者向け説明会等を開催する予定はありません。

購入を予定しています。運行方法としては、遠距離の生徒はこれまでどおり自宅付近からの乗車を基本とし、徒歩や自転車で通っている生徒については（白滝）市街に複数の乗車場所を設ける予定です。

特色ある地域教育の実施について要望がありますので、「石育」や「合気道」といった白滝ならではの学習活動についても、継続に向けた検討が行われていると学校から聞いています。

④説明会については、白滝中学校と丸瀬布中学校が協力し、開催時期や方法を検討しています。

教育委員会としても説明会に出席するなど、保護者の疑問や不安を少しでも解消し、統合が円滑に進むよう対応していく考えです。



せし 勢志 ゆか 優華 議員

ヤングケアラー支援に 対する町の取り組みは

町長～関係する機関と連携を図り
対応しています

問

北海道の調査では道内にヤングケアラーが一定数いることや、本人が負担を自覚しにくく悩みを誰にも相談した経験がない状況が明らかになっています。ヤングケアラー支援を進めていくにあたっては、早期発見と相談窓口の明確化、啓発活動で意

識を高めることが重要だと考えますので、3点について質問します。

①早期発見と現状を把握することで、適切な支援やサービスにつなげていくことができると考えます。アンケート調査など一歩踏み込んだ実態把握の調査が必要だと考えますが見解は。

②ヤングケアラーは自認しにくいことから、児童生徒に対してヤングケアラーを理解してもらうために、学校の授業に取り入れるなど継続した教育活動の一環として行っていくべきと考えますが見解は。

③児童生徒が、周りの大人に相談をしやすくする仕組みが大事だと考えます。気軽に相談できるような相談窓口の設置、認知度向上や明確化についてどのような対策を行っていますか。

答

①アンケート調査は現在のところ実施する予定はありませんが、実態把握については、相談を受けるケースに対して個別ケース会議を実施するなど、関係機関との連携を図り対応していきます。

②北海道が作成したリーフレットを配布するとともに学級活動の時間等を活用して説明し、ヤングケアラーについての理解や気付きを促進して早期発見と支援につなげる取り組みを行っています。

③北海道教育庁が設置している「おなやみポスト」や関係機関の相談窓口を周知し、児童生徒が自ら相談できる環境を整えています。

家庭以外で、児童生徒の様子を日常的に把握できるのは主に学校です。ので、担任を中心とした教職員が児童生徒の普段とは異なる様子を察する「気付き」が重要です。

異変を察知したときは学校から教育委員会へ、さらに町へ情報提供を行い、関係機関とも連携しヤングケアラーの支援に取り組んでいきます。



子どもたちの異変に「気付き」ことが重要となる

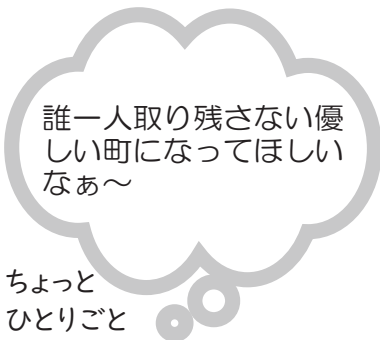
CHECK



ヤングケアラーとは？

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども・若者のこと。

「勉強に励む時間」「友人とのたわいもない時間」などといった「子どもとしての時間」を過ごすことができず、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負うことで、本人の育ちや教育に影響があるといわれている。(政府広報オンラインより)



誰一人取り残さない優しい町になってほしいなあ～

ちょっと
ひとりごと



むらおか あつこ
村岡 敦子 議員

ハラスメントを起こさない ための職場づくりは

町長へ良好な職場の人間関係の構築が重要と考えます

問

カスタマーハラスメントに関する町への取り組みとして、ホームページの記載内容や、名字のみに変更するなどの改善が図られる一方で、「職員の自死事案における調査報告を受けた対応について」では5点にわたる対応策が示されています。

今後は、ハラスメント



町職員が使用するネームプレートは、現在名字のみの表記としている

答

第三者機関の調査報告では、ハラス

や過度な時間外労働が主たる要因で職員の精神的健康が犯されることのないような職場づくりに期待し、2点質問します。

① 今後、ハラスメントに対する悩みや相談などはどこでどのように行おうとしていますか。

② 職場での勤務時間内の日常の接し方で、「呼び捨て」はパワハラにつながる恐れがあり、女性職員に対する「ちゃん付け」はセクハラにあたるとの見解もあることから、そうならないよう普段からの関係づくりが必要ではありませんか。

色々なハラスメントがありますね。ちなみに私がやったら「ジジハラ」かな？

ちょっとひとりごと

メントに関する報告はなかったため対応策には含まれなかったところですが。

① 現在、ハラスメントの防止等に関する要綱等の策定に向け準備をしております、総務部総務課長や総務課職員を相談員とすることを検討しています。

また、北海道カスタマーハラスメント防止条例でも「あらゆるハラスメントの相談について一元的に応じることができ体制を整備することが望ましい」となっており、同様の相談窓口により対応したいと考えています。

問

近年の物価高騰もあり、助成券の年間交付枚数の増や、一回あたりの使用枚数について

② 呼び捨てや「ちゃん付け」だけで直ちにハラスメントになるわけではないことから、定期的な面談やミーティング、ハラ

高齢者 乗りもの助成の 柔軟な対応を

行政改革もあり助成額等の引き上げについては安易にすべきではないと考えていますが、今後の特殊事情や時勢の状況に応じた対応を検討します。

答

複数枚の使用を可能にするなど、もう少し柔軟な取り扱いに変更する考えはありませんか。



さとう のぼる 議員
佐藤 昇

「終活支援」単身高齢者に対する町の取り組みは

町長～既存の組織を活用し、現状の体制で対応していきます

問

近年「おひとりさま」と呼ばれる単身高齢者が増えており、町内会や身近な人たちを見ても伴侶を亡くされた高齢者が増えたと実感しています。

「おひとりさま」になり、近くに頼れる家族等がない場合は孤独死となってしまう、亡くなっ

た後ご遺体を引き取る人がいないと無縁遺骨となってしまう。

超高齢化社会を目前にして、全国では一人一人の尊厳を守る終活支援に取り組み自治体が増えていますが、町ではどう考えていますか。

①「エンディングノート」の無料配布や、「終活セミナー」を開催しては。

②横須賀市で行っている「終活情報登録伝達事業」は、緊急連絡先や遺言書の保管場所など11項目の情報を町に登録し、万一の時に警察や医療機関などからの問い合わせに町が対応し、本人に代わって登録情報を伝える事業ですが、町でも取り組んでみては。

③「終活安心センター」は東京都豊島区で行っている事業で、専門相談窓口見守り相談や成年後見制度の利用など好評のよ

うです。町でも町民相談窓口を設置してスムーズなサービスが提供できれば、多くの町民の安心につながると考えますが町の見解は。

答

①エンディングノートは、従前から保健福祉総合センターに



法務省のホームページで公開するエンディングノート

見本等を設置しており、法務省でもインターネット上で公開し無料で入手できますので、町で作成し配付するより、その存在や活用を啓発することが肝要と考えています。

終活セミナーは、相談支援をしていく中でのニーズに応じ、各会合の機会を活用するなど検討していきます。

②相談や面接で得た本人の状況や経過は、地域包括支援センターや在宅介護支援センターなどで情報を積み上げており、各種ケース等で緊急対応が必要な場合は、組織横断した情報共有により対応をしています。

③地域包括支援センターであらゆる相談を受けていますが、「終活」の相談は多くありません。

このため、既存の組織や社会資源を活用して現状の体制で引き続き対応していきます。

「エンディングノート」を書くことから終活を考えるきっかけになります

ちょっとひとりごと



あべ きみえ 阿部 君枝 議員

農業と観光の活性化は

町長「ミント協定を地域ブランドとし
農業と観光の連携に取り組みたい

問 ミント研究推進に
関する連携協定は

本町の特色ある農業資源
を活用した地域振興の重
要な契機と認識していま
す。

また、令和8年施政執
行方針では、農業と観光
の活性化、都市部から大
学生の農業実習受入れ、
繁忙期の人手不足解消を
進めるとされています。

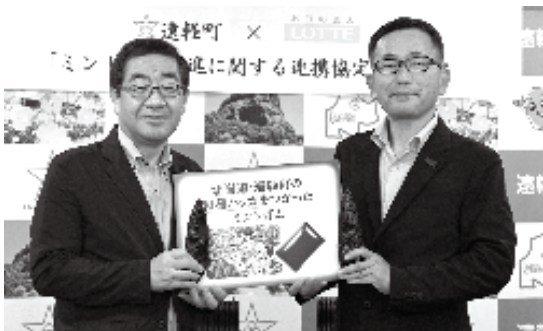
しかし、これらを実効
性ある地域政策へと発展
させるためには生産現場
での生産意欲維持向上な
ど踏み込んだ制度設計が
必要と考え、3点質問し
ます。

①ミント生産を地域ブラ
ンドとして確立していく
中長期的なビジョンを町

として持っていますか。

②大学生の農業実習受入
れ後の継続的な関係構築
をどのように図る考えで
すか。

③今後、農業と観光を横
断的に推進するための体
制を構築する考えはあり
ますか。



上) 町と株式会社ロッテが結んだ「ミント研究
推進に関する連携協定」

下) 町内で栽培しているハッカとその加工品



かつて当町が和種ハッ
カの中心であったこと
は、忘れ去られた歴史
かも？

ちょっと
ひとりごと

答

①ミントの栽培や
活用研究、和種

ハッカ生産の歴史や文化
の普及啓発と合わせ、今
後は官民連携による「遠
軽産和種ハッカ」を活用
した菓子などが商品化さ
れ、地域ブランドとして
広く認知されることが生
産意欲の向上につながる
と考えています。

②地元イベントへの参加
や農業実習をしながら自
動車免許を取得する事業
など、町内企業との連携
にも取り組みを進めるこ
とで、農業実習以外でも

学生と地域や企業との継
続的な関係構築に取り組
んでいるところです。

③先の質問にもありまし
たが、「遠軽産和種ハッ
カ」も農業だけにとどま
らず、地域資源として他
の部署と連携した取り組
みが想定される品目でも
あります。

このように、すでに日
ごろから職員間での横断
的な連携は行われてお
り、今後も形にとらわれ
ず、柔軟に対応していき
たいと考えています。



まえしま ひでき
前島 英樹 議員